

施策番号	2005		
施策名	歩行者と共存可能な自転車利用の促進		
概要	駐輪施設の整備や放置自転車の撤去及び放置防止啓発活動を実施することにより、歩行者等の通行を妨げ、まちの景観を損なう放置自転車の減少を目指すとともに、自転車利用ルール・マナーの向上を図り、安心・安全で快適な歩行空間の確保を実現する。		
担当局・部室	建設局・土木管理部	共管局・部室	
上位政策	20 歩くまち		
施策に関係する 主な分野別計画等	改訂京都市自転車総合計画		

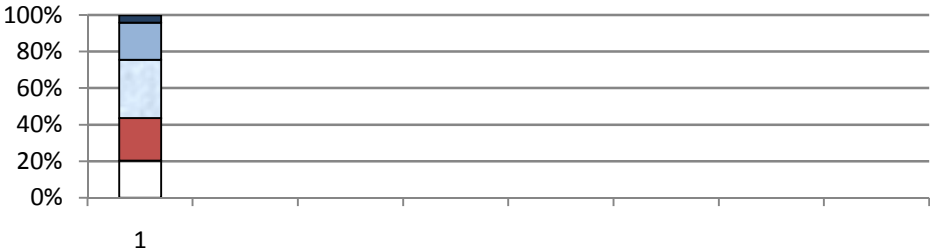
施策の評価

1 客観指標評価

指標名		年度	年度	23年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト
1	鉄道駅周辺における駐輪場の整備状況(台)	-	-	48,006	49,291	691台増	186.0%	a	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
				客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		23年度回答						
		そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない	有効回答者数	評価
1	駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により，自転車と歩行者が共存できている。	22	110	173	126	110	541	d
		4. 1%	20. 3%	32. 0%	23. 3%	20. 3%		
2	-							-
3	-							-
4	-							-
5	-							-
		市民生活実感調査総合評価						d



- そう思う
- どちらかと言うとそう思う
- どちらとも言えない
- どちらかと言うとそう思わない
- そう思わない

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

C	施策の目的がそこそこ達成されている						年度	-
	重み付け	☐ 客観指標	a	☒ 市民の実感	d			
(重み付けの理由) 安全で安心できる歩行空間は、市民に実感されることが重要であるため、市民生活実感評価を重視する。							年度	-
(原因分析) ・客観指標評価では、駐輪場の整備や放置自転車の撤去及び放置防止の啓発等により、放置自転車の減少に向けた取組を進めたことによりa評価となった。 ・市民の実感では、自転車利用者による放置行為等のほか、運転ルールが守られていないことや走行空間の整備状況等の複合要因により、歩行者等に悪い印象を与えている状況が反映され、d評価となったと考察する。							年度	-

今後の方向性の検討

＜この施策を構成する事務事業＞

	事業名	事業費の状況(千円)		23年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		22年度 決算額	23年度 予算額		
1	放置自転車等対策	383,412	616,599	普通	建設局
2	京都市山科駅自転車等駐車場	60,052	48,565	かなり良い	建設局
3	市営自転車等駐車場	227,324	—	かなり良い	建設局
4	都心部放置自転車等対策アクションプログラム推進事業	141,641	—	—	建設局
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

＜今後の方向性＞

・京都市内の鉄道駅周辺において、本市による整備のほか、「民間自転車等駐車場整備助成金」の活用等により、平成32年度末までに2,800台分の駐輪施設の整備を目指すとともに、担当職員等による自転車の放置防止及び駐輪施設利用促進の啓発活動を実施し、放置自転車の減少を目指す。

施策名	2005	歩行者と共存可能な自転車利用の促進					
指標名	鉄道駅周辺における駐輪場の整備状況（台）						
担当課	自転車政策課		連絡先	2 2 2－3 5 6 5			
1 指標の説明							
京都市内の鉄道駅周辺における駐輪場の整備状況							
2 指標の意味			3 算出方法・出典等				
歩いて楽しく、環境にやさしく美しい都市空間の確保に向けた共汗の取組による放置自転車対策の進ちょく状況を示す指標			算出方法：京都市における鉄道駅125駅周辺の駐輪場の整備状況（放置自転車台数－単年度における放置自転車減少の目標台数＝当年度における要整備収容台数） 出典：事業担当課調べ				
4 数値							
	前回数値	最新数値	推移	目標値			
	21年度	22年度		数値	根拠	達成度	
数値	48,006	49,291	1,285台増	691台増	政策評価目標の具体策として、当年度に減少すべき放置自転車台数と同数の駐輪台数を整備する。	186.0%	
	全国順位	中長期目標			備考	平成23年度以降の単年度目標値については、平成21年度調査の放置自転車台数に基づき、整備すべき駐輪台数を算出する。	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値		2800台増	32年度				平成32年度末までに放置自転車等台数を平成21年度実績から2,800台減少させるための具体策として、同数の駐輪場を整備する。
5 評価基準			6 基準説明		7 評価結果		
単年度目標値に対する達成率 a:100%以上 b:80%以上100%未満 c:60%以上80%未満 d:40%以上60%未満 e:未整備～40%未満			市内の鉄道駅周辺における駐輪場のうち本市関連整備（直営整備，民間自転車等駐車場整備助成金制度を活用した整備，公募等による事業者整備）による整備収容台数と目標収容台数を比較し，その達成率で評価する。			23	
					-	a	